農 推 第 ３ ４ ５ ４ 号
平 成 30年3月15日

関 係 各 位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス （3月）

大阪府内の3月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
春は強風の日が多いので、風のある時間帯は散布を避けるなど、薬剤散布の際はドリフトに注意しましょう。

●各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
●各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 http://www.jppn.ne.jp/osaka/

◎ 「防除指針」 http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html

▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

目次

1　水稲 …… P. 1
2　果樹（ぶどう、いちじく、もも、果樹類全般、バラ科果樹（もも、すもも、うめ等））…… P. 2～4
3　野菜（トマト・ミニトマト、なす、たまねぎ）…… P. 5～6

次回の情報は4月15日頃にお知らせします。

水稲　いもち病やもみ枯細菌病などの防除のため、種子消毒を行いましょう！

種子消毒、育苗

種子消毒

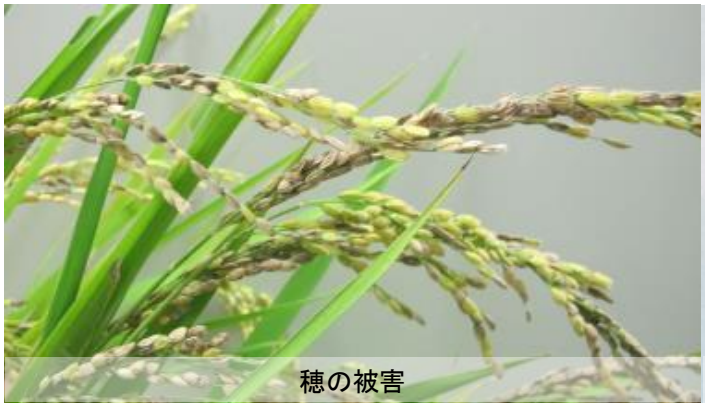
薬剤を使用する場合の注意
◆**テクリードＣフロアブル**、**スポルタックスターナＳＥ**等で消毒する。
◆消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。

温湯消毒の場合の注意
◆６０度の湯に１０分間浸漬する。引き上げ後、直ちに流水中で冷やす。
◆温度ムラが出ないように、時々種子袋を揺する。

育苗準備

◆育苗箱などの資材は使用前に**ケミクロンＧ**、**イチバン**等で消毒する。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）


穂の被害

玄米の症状　※

防除のポイント

◆特に出芽時の温度が高い場合に発病しやすいので、30度以下になるよう育苗時の温度管理に注意する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

果樹

ぶどう（加温栽培）

灰色かび病

特徴

◆多湿条件で発生が多くなる。
◆胞子（分生胞子）が風などによって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

◆適切に 換気を行い、湿度を下げるようにする。
◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
◆第１回ジベレリン処理から結実始めの間にビニル等でマルチングをする。
◆開花直前または落花直後に**ゲッター水和剤（45日前まで）**、**スイッチ顆粒水和剤（30日前まで）**、**フルーツセイバー（7日前まで）**等を散布する。

ハスモンヨトウ

幼虫　※

特徴

◆早期加温栽培では3～4月に被害を受けやすい。

防除のポイント

◆成虫発生初期から終期まで、**フェロモンディスペンサー（ヨトウコンーH）**を設置する。
◆発生を確認した場合は、**エクシレルSE**（前日まで）、**フェニックスフロアブル**（14日前まで）、**コテツフロアブル**（60日前まで）等を散布する。

ハダニ類

カンザワハダニ※

特徴

◆加温機の近くやダクトの先端部など、高温になりやすいところから発生する。

防除のポイント

◆発生を確認した場合は、**マイトコーネフロアブル**（21日前まで）、**バロックフロアブル**（7日前まで）、**ダニコングフロアブル**（前日まで）、**ダニトロンフロアブル**（30日前まで）等を散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

いちじく

ハダニ類、カイガラムシ類

カンザワハダニ※

フジコナカイガラムシ幼虫※

防除のポイント

◆３月中旬（発芽前）に**石灰硫黄合剤**を散布する。

もも

せん孔細菌病

春型枝病斑

葉の病斑

特徴

◆春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。

防除のポイント

◆開花期直前に**ICボルドー412**を散布する。（薬害を生じるおそれがあるため、開花後から８月末までは使用しないこと）
◆春型枝病斑を見つけたら、落花期までに切り取ってほ場外に持ち出し処分する。

果樹類全般

間伐・整枝・せん定

防除のポイント

◆密植園では、日照・通風条件が悪く、病害虫が発生がしやすいため、適切な樹間距離となるように間伐等を実施する。
◆整枝・せん定の切り口に**トップジンMペースト**を塗布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

成虫

幼虫

特徴

◆成虫は3～4cm。全体は光沢ある黒色で、前胸は明赤色。
◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。
◆幼虫は4月頃からうどん状のフラス（木くず・糞・樹脂の混合物）を出す。
◆成虫は6～8月頃に羽化、幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
◆うどん状のフラスがある穴には幼虫がいる可能性が高い。
◆若齢幼虫はうどんよりも細いフラスを出すことがある。

防除のポイント

◆被害の大きい樹や枝は、倒木・落枝などの危険があることや、内部の幼虫を処分するために、早期に伐採し、焼却あるいは破砕（チップ化）することが望ましい。
◆焼却や破砕（チップ化）が難しいときはネットやビニルシート等で2重に覆い、内部から成虫が羽化することを防ぐ。
また、伐採後の切り株についても、同様の理由でネットやビニルシート等で覆う。
◆昨年フラスが見られた樹は幼虫が寄生している可能性が高いので、成虫が羽化する6月上旬頃までに、ネットを巻き付けるなど成虫の羽化を防ぐ対策をとる。
ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に巻く。
ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切るので、樹幹との間に余裕を持たせる。

被害枝

うどん状フラス

昨年フラスが確認された樹はネットを巻く等を行い、
成虫がほかの樹へ拡散することを防ぎましょう

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

野菜

３月前半の病害虫発生状況

品目＼程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト（施設栽培）			すすかび病・葉かび病		
なす			すすかび病・灰色かび病		
			アザミウマ類		
たまねぎ			べと病		
			白色疫病		

トマト・ミニトマト（施設栽培）

すすかび病・葉かび病

被害葉※

特徴

◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
◆近年増加傾向にある。葉かび病よりかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

◆発生を認めたら、**トリフミン水和剤**（前日まで）、**ファンベル顆粒水和剤**（トマトのみ、前日まで）などを散布する。

なす

アザミウマ類

ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

◆苗からの持ち込みによる発生が多く見られている。

防除のポイント

◆発生が見られたら、**ディアナSC**（前日まで）、 **プレオフロアブル**（ミナミキイロアザミウマ）（前日まで）、**モベントフロアブル**（前日まで）を散布する。

すすかび病　・　灰色かび病

すすかび病

防除のポイント

◆保温のためハウスを締め切ることが多くなるが、適度に換気を行い、湿度を下げる。
◆発生が見込まれる時期に、
ベルクート水和剤（すすかび病、灰色かび病）（前日まで） を
発生を認めたら
トリフミン乳剤（すすかび病）（前日まで）、
カンタスドライフロアブル（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を
散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

たまねぎ

べと病

暖かくなるこの時期は、べと病が発生しやすい気象条件です。雨が続く日は特に注意しましょう。

越年罹病株

特徴

◆苗床・定植後に、前作の作物残さなどから感染し、１～２月に越年罹病株として病徴を現す。

防除のポイント

◆予防散布として、
ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤（３日前まで）、**ランマンフロアブル**（７日前まで）を散布する。

◆発生を認めたら、
ベトファイター顆粒水和剤（７日前まで）か
プロポーズ顆粒水和剤（７日前まで）を散布する。

◆発病した株は感染源となるので、抜取る。抜き取った株は肥料袋などに集め、石灰窒素を加えて密封するなど、ほ場外へ持ち出した上で、適切に処分する。

病害虫防除情報
「たまねぎべと病の予防散布を徹底しましょう！」
も参考にして下さい（平成30年3月1日発表）
http://www.jppn.ne.jp/osaka/H29nd/H29yosatu.html

白色疫病

特徴

◆２～３月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

◆発生が見込まれる時期に、予防散布として、**ランマンフロアブル**（７日前まで）、**ジマンダイセン水和剤**（３日前まで）を散布する。

◆発生を認めたら、**ザンプロDMフロアブル**（７日前まで）か**プロポーズ顆粒水和剤**（７日前まで）を散布する。

注意

【べと病・白色疫病】ジマンダイセン水和剤（5回）
【べと病のみ】ペンコゼブ水和剤（5回）
【べと病・白色疫病】リドミルゴールドMZ（3回）

上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。マンゼブの総使用回数は5回以内。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。